

## 安全データシート

## 1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称	1%ローダミンB液
会社名	武藤化学株式会社
住所	東京都文京区本郷2-10-7
電話番号	03-3814-5511
FAX番号	03-3815-4832
メールアドレス	
推奨用途及び使用上の制限	検査・研究用

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類	分類実施日	H23.3.15、政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7月版)を使用
-------	-------	-------------------------------------

物理化学的危険性	急性毒性(経口)	区分4
健康に対する有害性	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分3(気道刺激性)

環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	区分3
	水生環境慢性有害性	区分3

注) 上記で区分の記載がない危険有害性は政府向けガイダンス文書で規定された[分類対象外]、[区分外]または[分類できない]に該当するものであり、後述の該当項目の説明を確認する必要がある。

ラベル要素	
絵表示又はシンボル	

注意喚起語	警告
危険有害性情報	飲み込むと有害 (気道刺激性)呼吸器への刺激のおそれ 水生生物に有害 長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き	<p>【安全対策】</p> <p>取扱後は手をよく洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 環境への放出を避けること。</p> <p>【応急措置】</p> <p>飲み込んだ場合: 気分が悪い時は医師に連絡すること。 口をすすぐこと。 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は医師に連絡すること。</p> <p>【保管】</p> <p>換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉しておくこと。 施錠して保管すること。</p> <p>【廃棄】</p>
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

## 国・地域情報

### 3. 組成及び成分情報

#### 化学物質

化学名又は一般名	ローダミンB	水
分子式(分子量)	C12H31N2O3(479.02)	H2O
CAS番号	81-88-9	
官報公示整理番号(化審法・ 安衛法)	化審法:(5)-1973、(5)-4056 安衛法:	
分類に寄与する不純物及び 安定化添加物	データなし	
濃度又は濃度範囲	1%	99%

### 4. 応急措置

#### 吸入した場合

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。  
空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
水と石鹼で洗うこと。

#### 皮膚に付着した場合

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

#### 眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。

#### 飲み込んだ場合

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。  
口をすすぐこと。

#### 予想される急性症状及び遅発性症状

気分が悪い時は医師に連絡すること。

吸入：ICSC情報より転記

皮膚：ICSC情報より転記

眼：ICSC情報より転記

経口摂取：ICSC情報より転記

#### 最も重要な兆候及び症状

データなし

#### 応急措置をする者の保護

データなし

#### 医師に対する特別注意事項

データなし

### 5. 火災時の措置

#### 消火剤

水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

#### 使ってはならない消火剤

データなし。

#### 特有の危険有害性

加熱されると分解して、腐食性及び/又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

#### 特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

#### 消火を行う者の保護

適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

### 6. 漏出時の措置

#### 人体に対する注意事項、保護具および 緊急措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

関係者以外の立入りを禁止する。

密閉された場所に立入る前に換気する。

全ての着火源を取り除く。

#### 環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

#### 回収・中和

漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。

#### 封じ込め及び浄化方法・機材

水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。

#### 二次災害の防止策

プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

### 7. 取扱い及び保管上の注意

<p><b>取扱い</b></p> <p>技術的対策 局所排気・全体換気</p> <p>安全取扱い注意事項</p>	<p>特別に技術的対策は必要としない。 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。</p> <p>取扱後は手をよく洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。</p>
<p><b>保管</b></p> <p>接触回避 技術的対策 保管条件</p> <p>容器包装材料</p>	<p>データなし。 特別に技術的対策は必要としない。 換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉しておくこと。 施錠して保管すること。 データなし。</p>

**8. ばく露防止及び保護措置**

<p>管理濃度 許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標)</p>	<p>未設定</p>
<p>日本産衛学会 ACGIH</p>	<p>未設定 未設定</p>
<p><b>設備対策</b></p>	<p>この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、適切な洗眼器と安全シャワーを設置すること。 ばく露を防止するため、作業場には適切な全体換気装置、局所排気装置を設置すること。</p>
<p><b>保護具</b></p> <p>呼吸器の保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具</p>	<p>適切な呼吸器保護具を着用すること。 適切な保護手袋を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること。 適切な保護衣を着用すること。</p>
<p><b>衛生対策</b></p>	<p>取扱い後はよく手を洗うこと。</p>

**9. 物理的及び化学的性質**

<p>物理的状 形状 色 臭い pH</p>	<p>液体 緑色 データなし データなし</p>
<p>融点・凝固点 沸点、初留点及び沸騰範囲 引火点 自然発火温度 燃焼性(固体、ガス) 爆発範囲 蒸気圧 蒸気密度 蒸発速度(酢酸ブチル=1) 比重(密度) 溶解度 オクタノール・水分配係数 分解温度 粘度 粉じん爆発下限濃度 最小発火エネルギー 体積抵抗率(導電率)</p>	<p>165 °C : Merck (14th, 2006) データなし データなし データなし データなし データなし データなし データなし データなし データなし 1.20E+004 mg/L : Merck (14th, 2006)、 1.95 (Merck (14th, 2006)) データなし データなし データなし データなし データなし データなし</p>

**10. 安定性及び反応性**

<p>安定性 危険有害反応可能性</p>	<p>法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる データなし</p>
--------------------------	----------------------------------------------

避けるべき条件  
混触危険物質  
危険有害な分解生成物

データなし  
データなし  
データなし

## 11. 有害性情報

急性毒性 経口

マウスLD50値は887 mg/kg bw(RTECS (2006); TOERD9 Toxicological European Research.1, 23, 1978)。(GHS分類:

経皮  
吸入

データなし。(GHS分類:分類できない)

吸入(ガス):GHSの定義における固体である。(GHS分類:分類対象外)

吸入(蒸気):データなし。(GHS分類:分類できない)

吸入(粉じん・ミスト):データなし。(GHS分類:分類できない)

皮膚腐食性・刺激性

自動車修理工場において本物質のパウダーを誤って床にこぼしてしまい、それに30分程度ばく露したヒトが、急性症状(皮膚のいたがゆさ)を訴えたという報告があるが、63%が4時間以内に、全員が24時間以内に症状が消散しており、一時的刺激で、重大な後遺症はないとされている(HSDB (2002)、The EFSA Journal 263(2005))。皮膚刺激性が示唆されるが、その他に区分を特定する十分な情報はない。(GHS分類:データ不足で分類できない)

眼に対する重篤な損傷・刺激性

自動車修理工場において本物質のパウダーを誤って床にこぼしてしまい、それに30分程度ばく露したヒトが、急性症状(眼の熱傷、過度な流涙)を訴えたという報告があるが、63%が4時間以内に、全員が24時間以内に症状が消散しており、一時的刺激で、重大な後遺症はないとされている(HSDB (2002)、The EFSA Journal 263(2005))。眼刺激性が示唆されるが、その他に区分を特定する十分な情報はない。(GHS分類:データ不足で分類できない)

呼吸器感受性又は皮膚感受性

呼吸器感受性:データなし。(GHS分類:分類できない)

皮膚感受性:データなし。(GHS分類:分類できない)

生殖細胞変異原性

エームス試験で陽性および陰性、ホエジカの線維芽細胞での染色体異常試験で陽性の結果があるが、エームス試験の陽性は不純物の影響によるとされている(The EFSA Journal 263(2005))。(GHS分類:in vivo 試験のデータがなく分類できない)

発がん性

IARCにおいてGroup 3(IARC 16 (1978))。ラット及びマウスの長期(約2年)の経口及び経皮投与試験において、本物質に発がん性があるとの証拠は得られていない(IARC 16 (1978))。(GHS分類:分類できない)

生殖毒性

、マウス、ラット、ウサギ、イヌにおいて催奇形性が認められなかったとの報告が複数ある(HSDB (2002)、Birth Defects (3rd, 2000)、Teratogenic (12th, 2007))が、親の性機能、生殖能への影響が不明である。(GHS分類:データ不足で分類できない)

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

自動車修理工場において本物質のパウダーを誤って床にこぼしてしまい、それに30分程度ばく露したヒトが、急性症状(鼻の熱傷、胸の痛みや締め付けられるような感覚、咳、呼吸困難、のどの痛み、胸焼け)を訴えたという報告(HSDB (2002)、The EFSA Journal 263(2005))がある。(GHS分類:区分3(気道刺激性))

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

ラットを用いた18週間の混餌試験(0、0.1、0.25、0.5、1.0 or 2.0%; 100、250、500、1000 mg/kg/bw)において、最高用量を投与した群に肝障害が認められたとの報告があるが(IARC 16 (1987))、いずれも区分外の投与量であり、このデータのみでは分類できない。(GHS分類:データ不足により分類できない)

吸引性呼吸器有害性

データなし。(GHS分類:分類できない)

## 12. 環境影響情報

生態毒性	水生環境有害性(急性有害性)	甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50 = 22.9 mg/L (AQUIRE, 2011)。(GHS分類:区分3)
	水生環境有害性(長期間有害性)	急性毒性区分3であり、急速分解性がない(難分解、BODによる分解度:0%(既存点検, 1987))。(GHS分類:区分3)
	オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。(GHS分類:分類できない)

## 13. 廃棄上の注意

### 残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

### 汚染容器及び包装

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従う容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14. 輸送上の注意

該当の有無は製品によっても異なる場合がある。法規に則った試験の情報に基づく修正の必要がある。

国際規制	国連番号	特定できず
	海上規制情報	特定できず
	航空規制情報	特定できず
国内規制	陸上規制情報	該当法規なし
	海上規制情報	特定できず
	航空規制情報	特定できず
		輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
		重量物を上積みしない。
	緊急時応急措置指針番号	—

## 15. 適用法令

該当なし

## 16. その他の情報

### 参考文献

各データ毎に記載した。

### <モデルSDSを利用するときの注意事項>

本モデルデータシートは作成年月日時点における情報に基づいて記載されておりますので、事業場においてSDSを作成するに当たっては、新たな危険有害性情報について確認することが必要です。さらに、本データシートはモデルですので、実際の製品等の性状に基づき追加修正する必要があります。また、特殊な条件下で使用するときは、その使用状況に応じた情報に基づく安全対策が必要となります。